

令和3年度学校自己評価システムシート (県立熊谷西高等学校)

目指す学校像	生徒の力を最大限に伸ばす県北が誇る進学校
--------	----------------------

重点目標	1 知性・勇気・品格を備えた西高生を育成する 2 高い志と学力を育み、第一志望進路を実現できる西高生を育成する 3 家庭や地域に積極的に働きかけ、開かれた西高づくりを推進する 4 SSH指定校として、西高生の科学的資質向上に全校で取り組む
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	16名

学 校 自 己 評 価					年度評価 (2月1日現在)		
年 度 目 標			年 度 評 価				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	多くの生徒が節度を持ち、主体的に学校生活を送れている。一層自主性と積極性を高めることが望まれる。	⑦マナー、ルール順守を徹底する。 ①自主性と積極性をより一層高める。 ⑦心身の健康増進を図る。	①交通安全指導、登校指導の実施。 ②挨拶の励行。 ①行事や委員会活動において生徒の自主的活動を推進する。 ②部活動においてチャレンジ精神やチームワークを育成し、達成感や自信を持たせる。 ①教育相談体制の充実。 ②感染症拡大防止の徹底。	①年20回以上実施したか。 ②生徒の自発的な挨拶が増えたか。 ①生徒の自主的な取組が増えたか。 ①生徒が協働し行事が成功したか。 ②複数の部で県大会入賞以上。 ②部活動加入率90%以上。 ①生徒が相談しやすい環境を作れたか。 ①教職員間の共通理解に基づいた指導が実施できたか。 ②感染症拡大防止が徹底できたか。	マナー、ルール順守を徹底し、生徒の自発的な挨拶も増えた。 自主性、積極性が高まった。 ①自主的な取組により全行事を実施し成功を収めた。 ②全国大会に5つの部等が出場するなど多くの成果を上げた。 心身の健康増進が図れた。 ①家庭や教職員間で十分連携をしながら生徒、保護者の相談にきめ細かく対応した。 ②感染症拡大防止を徹底できた。	B A B	教職員全員での声かけ等を一層増やす。 生徒の自主性、積極性を更に引き出し、行事等での良き伝統の継承と新たな挑戦を推進する。部活動等の生徒の活躍の場を拡充する。 引き続き感染症予防対策の徹底に努めながら、健康啓発情報の発信、生徒自身による心身の健康管理や非常災害への備えを推進する。
2	近年、進学実績の向上が見られる。新学習指導要領や、大学入試の変化に適切に対応しつつ、一層充実した進路指導が求められている。	⑦新学習指導要領、高大接続改革を踏まえた授業改善により、思考力、判断力、表現力を向上させる。 ①国公立大学や難関私立大学等の第一志望校合格を実現する。	①探究活動を通じて主体的に学ぶ態度を育てる。 ②各授業でAL(アクティブラーニング)活動を充実させる。 ③朝学習、進路自習室、学習動画等の活用により自学自習を促進する。 ④読書を推奨し、読み取る力と他者に伝える力を育成する。 ①補習や個別指導等大学入試対策の充実を図る。 ②適切な情報提供や個人面談等により、最後まで高い目標を諦めさせない指導を行う。	①探究活動の成果が見られるか。 ②各教科で「AL5Five」「L05Five」等により「主体的・対話的で深い学び」を実現できたか。 ③朝学習や自習室及び家庭における学習時間が増加したか。 ④図書館の利用者が増加したか。 ④ビブリオバトル等の読書推進活動に積極的に取り組めたか。 ①効果的な大学入試対策を実施できたか。 ①補習参加者が増加したか。 ②第一志望校進学数が昨年より増えたか。	アクティブラーニングを積極的に導入して思考力、判断力、表現力を鍛えた。 ①日本学生科学賞や全国高総文祭等、全国を舞台に研究発表する機会多数。 ②全ての教科でALやICT活用に取組んだ。 ③大半の生徒が朝学習に参加し、家庭学習等の時間も増えている。 ④図書委員会を中心にビブリオバトルを実施、県大会へ出場した。 国公立大学受験者が増えるなど目標を維持した生徒が多かった。 ①②年間を通じて補習や二者面談を多く実施した。また「進路の道標」や進路だより、進路講演会等で適切な情報提示と具体的な指導を行った。	A A	アクティブラーニングを多くの授業で実践することにより、生徒の主体的・協働的な学習態度が育ってきている。その一方で、自主学習の積み重ねによる基礎基本の徹底については、まだ十分とは言えない。モチベーションを持続させる具体的な声掛けや方策、地道な積み上げ指導の研究が必要である。 生徒は概ね高い学習意欲・進路意識を示しているが、一方で学習意欲の低い者や基礎学力が未定着の者も見られる。面談や模試結果を活用し、より幅広く進路指導の充実を目指す。
3	高大連携等校外の教育力を活用した特色ある教育活動が実施されている。生徒募集に繋がる積極的なPRが必要である。	⑦大学、企業、研究機関等との連携や家庭との連携を一層充実させる。 ①生徒募集活動を一層充実させる。	①既存の連携事業を一層強化する。 ②講演会や学校ホームページ、進路の道標等を活用し、保護者に十分な進路情報を提供する。 ③学校行事とPTA各種委員会との連携を図る。 ①学校説明会、相談会等を効果的に実施する。 ②インターネットを一層活用する。	①実施回数や参加者数が昨年度を上回ったか。 ②講演会の参加者が増加したか。 ③十分な情報提供ができたか。 ③学校行事実施においてPTAと積極的な連携ができたか。 ①②生徒募集において昨年度の倍率を上回ることができたか。	大学や研究機関等外部機関との十分な連携を果たした。 ①②リモートでの連携、講演を含め予定事業は全て実施した。 ③感染防止の観点からPTA行事の多くは中止となった。 昨年度より募集定員増だが、例年並みの倍率を維持。 ①予定通り説明会、相談会を実施し好評を得た。 ②Webによる広報活動は一層充実することができた。	A B	状況を見極めながら、可能な限り現場へ向う実体験できる機会を増やす。PTA行事の多くが2年連続の中止であった。綿密な引継ぎが必要である。 学校見学や部活動体験等のニーズが高い。感染症対策を図りながらニーズに応える工夫が必要である。
4	学校全体としてのSSH事業への積極的な取組が定着しつつある。中間評価の年度として更に取組の深化を図る。	SSH事業を通じて科学的素養や探究心、プレゼンテーション能力等を育成する。	①全職員が共通理解のもとSSH事業に取り組む。 ②「KN-Line(熊西『学び』の双方向ライン)」を一層充実させる。 ③「SL-Net(サイエンスラーニングネットワーク)」の取組として情報発信や地域貢献を推進する。	①全職員による事業展開ができたか。 ②課題研究や探究活動における発表の機会等を通じて、双方向の学びを充実させられたか。 ③効果的な情報発信、地域貢献ができたか。	全教職員が協力してSSH事業をほぼ計画通り実施できた。 ①②普通科も含め学校全体での研究発表会を実施した。 ③楽しもうサイエンスの実施などSL-Netの取組ができ、情報発信と地域貢献が図れた。	A	日本学生科学賞入賞等めざましい成果を上げることができた。今後も理数科を中心としたハイレベルな課題研究を推進するとともに、ここまで積み上げてきた学校全体による探究活動の継続を目指して指導マニュアルの整備等を進めていく必要がある。

学校関係者評価	実施日 令和4年 3月 11日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの生徒が節度ある学校生活を送っているようだ。整容指導を増やすことで更に生徒の意識を高めることができるのではないかと。 様々な活動に制限はあるが、西高らしさを途切れず引き継いでいくことが重要。また、自主性や積極性の向上に小グループ活動を基にしたボトムアップ活動が有効と思われる。学校においてはそれがクラス活動や部活動に当たるので、次年度への課題の方向性は非常に良い。更なる積極的な推進を期待します。 コロナ禍における行動様式の徹底を引き続きお願いしたい。また、学級閉鎖や出席停止に伴うリモートでの学習機会の保障にも万全を期してほしい。 生徒は自分の第一志望の進路実現に対し、とても前向きな姿勢で取組んでいた。諦めない、妥協しない姿勢が全体的に育ってきている。 大学受験に対する意識が十分でない生徒もいるようだが、動機付けになるような面談指導や補習等の更なる充実を希望する。 各授業における協調学習・アクティブラーニングでは、生徒同士の意見交換を進める中で、論理的思考や分かり易く情報発信する表現方法等を学んでいる。今後も一層多くの授業でグループワークやアクティブラーニング実践を進めてほしい。 年次進行で始まる新学習指導要領や観点別評価への取組状況を注視していきたい。 クラスなどの小グループ単位で見ると主体的な取組状況にばらつきもある。学校全体としての向上を図るためにも、バランスに配慮しつつ、一層の環境作りをお願いしたい。 感染症対策を徹底しながら探究活動に関わる多くの連携が実施できたことは評価に値する。 ホームページ等を活用したスピード感ある正確な情報発信は学校の評価向上に直結する。更なる取組に期待する。 PTA行事の引継ぎは実際に体験した人がおらず大きな課題である。同時に逆の発想として新たな取組や行事精査のチャンスでもある。 学校全体としての探究活動やSSH事業への取組は大いに評価できる。生徒研究発表会では理数科のみならず普通科や部活動での探究活動の発表も素晴らしかった。 多分野に目を向け自ら調べたり意見交換したりする力は今後の社会で必要とされる。 校外へのPRを一層工夫・推進していくべき。生徒募集にも有効なのは。